

語り部バス

震災の風化防止に役割

復興・創生顕彰 南三陸ホテル観洋が受賞

東日本大震災後の創造に向けた取り組みをたたえる復興庁の「新しい東北復興・創生顕彰」で、「語り部バス」を運行している南三陸ホテル観洋が受賞した。震災後に連日、町内をめぐって来訪者に災害の恐ろしさや教訓を伝える取り組みが、震災の風化防止につながっているなど高い評価を受けた。



語り部を務めるホテルスタッフ

顕彰は2016年度 高野会館などを回ってに始まり、3年目。本被災状況、復興の様子年度は132件(個人)を伝えている。15件、団体177件)の応募のうち、外部有識者による選定委員会で、表彰する10件を選んだ。

観洋の語り部バスは震災直後、来訪者から依頼が増えた道案内をきっかけにメニュー化した。11年8月から本格運行を開始し、所有する大型バスや団体がチャーターしたバスにホテルスタッフが乗り込み、甚大な被害を受けた戸倉地区周辺をはじめ、防災対策庁舎や

語り部はスタッフだけの応募のうけでなく、町民も務め、情報共有や客への伝え方を学ぶ研修にも力を入れ、資質向上に努めている。

開始から休むことなく運行を続けており、これまでの利用者は述べ35万人以上、学校の教育旅行では540校以上が乗車。被災からの教訓だけでなく、被害を乗り越え、復興に歩む町の姿を伝承し続けている。過去に

は、日本観光振興協会

などが主催するジャパ・ツーリズム・アワード大賞も受賞している。

17日に仙台市で行われた表彰式で、渡辺博道復興相から顕彰状を受け取った阿部憲子おかみは「今後の活動への励みになる。教訓を伝えることで、滅亡にもつながる。大切な命、地域を守るため、これからも多くの方が足を運んでほしい」と喜んだ。

2019年2月20日(水)

三陸新報